

北海道新幹線倶知安駅 駅舎デザインコンセプトの検討について

令和2年12月10日

駅舎デザインコンセプトの検討

前提条件

地域の現状

- 倶知安町とニセコ町で多くのインバウンド客が来訪
- 高級なコンドミニアムや世界的なブランドのラグジュアリーホテルの整備や計画が多い

新駅の位置付け

- 羊蹄山麓地域
- ニセコエリアの玄関口

駅周辺のまちづくりのコンセプト

「人がつながり地域がつながる新幹線まちづくり～みんなで進める新幹線駅周辺整備とにぎわいの創出」

町民アンケートの結果

駅づくりを進める上で重視するキーワード

- 落ち着いた (79.0%)
- 暖かみのある (76.6%)
- 自然的 (74.8%)

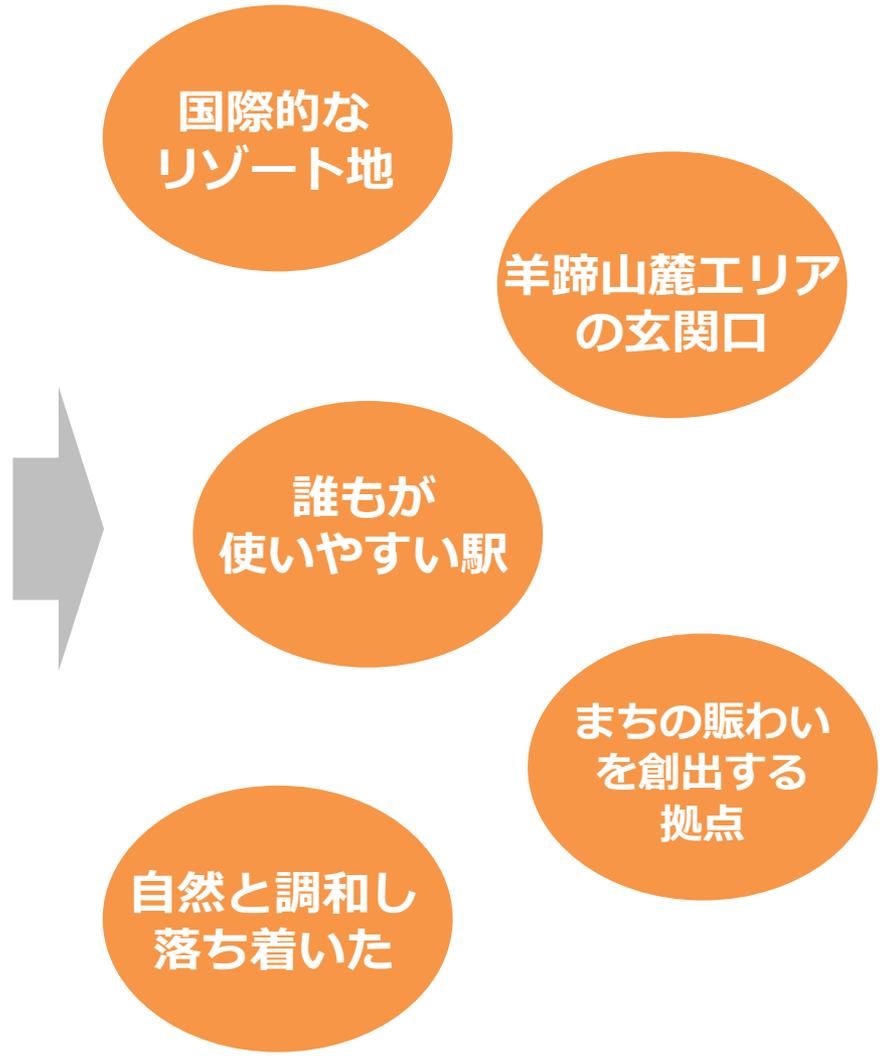
駅舎にふさわしいデザイン

- 羊蹄山を眺望できるデザイン (62.0%)
- 誰もが使いやすいユニバーサルデザイン (49.6%)

駅舎デザインにふさわしいキーワード、モチーフ

- 羊蹄山 (82.7%)

デザインコンセプトを検討する上で意識したい視点



駅舎デザインコンセプトの検討

- ・第2回検討委員会で挙げた、駅舎デザインコンセプトに関する意見を以下に示す。

○駅舎デザインコンセプト（委員からの提案）

駅舎デザインコンセプト(提案)

「羊蹄山麓(=自然)全体、地域と人をつなぐ駅」

「羊蹄山」

第2回検討委員会での意見(概要)

- ・ニセコ羊蹄にふさわしい自然と調和した駅舎デザインを望む。(本田委員)
- ・デザインコンセプトは駅舎整備後も残るものなので、シンプルな方がいいと思う。コンセプトは全ての答えになると思う。(峠々委員)

○駅舎デザインコンセプト（例）に関する意見

駅舎デザインコンセプト(例)

A. 羊蹄山とニセコ連峰を望む
北国の山岳景観や田園景観に調和した駅

B. 地域の歴史(農村)と未来(国際リゾート)
をつなぐ架け橋になる駅

第2回検討委員会での意見(概要)

- ・新函館北斗駅に降り立って思ったのが、人があまりいない閑散とした活気がないイメージを持った。どんなに素敵なデザインの駅舎であっても、人のにぎわいを演出するような仕掛けが必要。(金塚委員)
- ・誰が使う駅なのかをイメージすることが重要。地域住民の賑わいをつくれるような、みんなで新幹線をつくるということもあってほしい。
- ・田舎に調和した=田舎らしくするのではなく、洗練されたものがあつたほうが良い。(柏谷氏)
- ・町民にとっては、「羊蹄山」がふさわしいキーワード。
- ・羊蹄山は近隣住民の自然の象徴なので、駅舎に反映するのは大事。一方、国際スキーリゾートの面も重要。2つの素晴らしい側面を持っていることを表現していくべきでは。(斎藤委員)

○上記以外の意見

- ・倶知安町はヒラフエリアは別だが、結局は田舎。自然と調和した方向で考えていければと思う。(佐藤委員)
- ・羊蹄山をデザインの中心と考えつつ自然と調和したデザインが一番良いと思う。(吉田委員)

- ・市街地景観検討委員会でも、山のイメージと一体となった駅舎を作るにはどうしたらいいかという意見が出ていた。(本田委員)
- ・デザイン(=絵)がない状態で言葉だけを考えるのは難しい。イメージがいくつかあつたほうが議論しやすい。(吉田委員)

駅舎デザインコンセプトの検討

- ・第2回検討委員会での意見を踏まえて検討した駅舎デザインコンセプト（案）を下記に示す。

	駅舎デザインコンセプト（案）	概要
1	羊蹄山麓・ニセコエリアの雄大な自然に調和した四季を感じる賑わいあふれる駅	町のシンボルである羊蹄山やニセコ連峰を望む景観と調和した自然素材（木材や石材）を多用したデザインを意識するとともに、羊蹄山麓地域の玄関口として地域の賑わいを創出できるような駅舎イメージ
2	羊蹄山 ～地域のシンボルである羊蹄山 と調和した駅づくり～	地域住民の象徴である羊蹄山と調和できるよう木材を活用したシンプルな駅舎デザインや羊蹄山の眺望を意識したデザイン等、羊蹄山を意識した駅舎イメージ
3	羊蹄山麓を中心とした、 地域の歴史と未来をつなぐ架け橋となる駅	農業地帯として発展してきた羊蹄山麓地域の歴史を大切にしながら、国際的なリゾート拠点となったニセコエリアの現代的で高級なイメージを感じさせる駅舎イメージ